

# 甲状腺機能低下症における，CK そしてアルドラーゼの検討

○藤本茂紘<sup>1</sup>，西山宗六<sup>1</sup>，児玉美穂子<sup>2</sup>  
松田一郎<sup>1</sup>

(1. 熊大小児科，2. 熊大小児発達学)

甲状腺ホルモンは肝でのコレステロール代謝に影響を与え，甲状腺機能低下症では，その分解が低下するため高コレステロール血症を示す。しかし小児とくに年少児では稀れともいわれている。一方血中CK，アルドラーゼは筋疾患の時に高値を示すが，甲状腺機能低下症においても高値を示すことがある。

今回私達はクレチン症において甲状腺ホルモンとこれら各種項目とについて検討を行った。

## 対象ならびに方法

クレチン症27名(男7名，女20名：年令2ヶ月より13才)について治療前，後の延57名について検討した。採血時間は午前11時より13時までに行い， $\ell$ -T<sub>4</sub>内服者の場合，内服後4ないし6時間にたった。血中TSH，T<sub>3</sub>，T<sub>4</sub>，Free T<sub>4</sub>，総コレステロール(T-C)，HDL-コレステロール(HDL-C)，中性脂肪(TG)，NEFA，クレアチニン・キナーゼ(CK)，アルドラーゼ(A)を測定した。

## 成 績

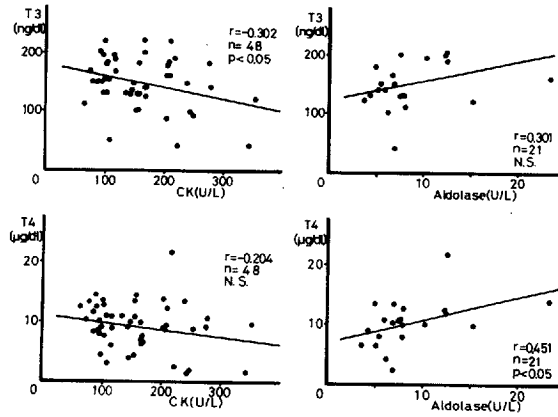
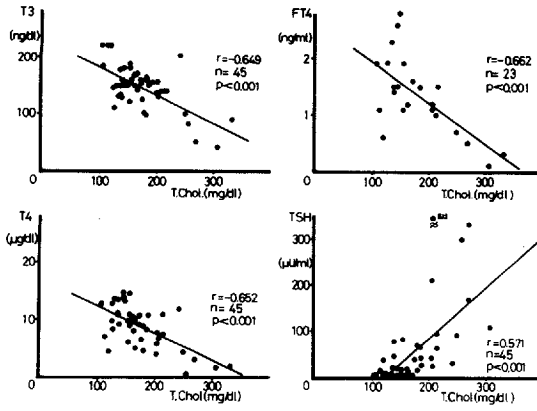
I) 脂質系との関連：TGやNEFAとの間には相関はみられなかった。T-CとではT<sub>3</sub>，T<sub>4</sub>，F-T<sub>4</sub>は負の相関(T<sub>3</sub>： $r = -0.649$ ，T<sub>4</sub>： $r = -0.652$ ，F-T<sub>4</sub>： $r = -0.662$ ，いずれも $P < 0.001$ )，TSHは正の相関( $r = 0.571$ ， $P < 0.001$ )を示した。HDL-CとではT<sub>4</sub>，F-T<sub>4</sub>は負の相関(T<sub>4</sub>： $r = -0.417$ ，F-T<sub>4</sub>： $r = -0.499$ ，いずれも $P < 0.05$ )，TSHは正の相関( $r = 0.402$ ， $P < 0.05$ )を示したが，T<sub>3</sub>は相関はみられなかった。T-C/HDL-C比ではT<sub>3</sub>のみが負の相関( $r = -0.417$ ， $P < 0.05$ )を示した。

II) CK，Aとの関連：CKとではT<sub>3</sub>が負の相関( $r = -0.302$ ， $P < 0.05$ )を示したが，T<sub>4</sub>，F-T<sub>4</sub>，TSHとは相関はなかった。AとではT<sub>4</sub>が正の相関( $r = 0.451$ ， $P < 0.05$ )を示したが，T<sub>3</sub>，F-T<sub>4</sub>，TSHとは相関がなかった。全般的にCKと甲状腺ホルモンは負の相関ならびに傾向を示した(図1，2)。

## ま と め

T-Cと甲状腺ホルモンは小児においても相関を認めた。

CKやAと甲状腺ホルモンとは逆の関係にあり，甲状腺ホルモンと筋肉との関係だけでなく，脳や甲状腺などから由来されたものとの関連性を検討する必要があると思われた。





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



甲状腺ホルモンは肝でのコレステロール代謝に影響を与え、甲状腺機能低下症では、その分解が低下するため高コレステロール血症を示す。しかし小児とくに年少児では稀れともいわれている。一方血中CK, アルドラーゼは筋疾患の時に高値を示すが、甲状腺機能低下症においても高値を示すことがある。

今回私達はクレチン症において甲状腺ホルモンとこれら各種項目とについて検討を行った。